
8秒

鮎雅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

8秒

【Nコード】

N4609V

【作者名】

鮎雅

【あらすじ】

たった8秒間のためだけの、6ヶ月に及ぶドラマ。

小学6年生の荻野君が主人公。

友人とのすれ違いや、淡い恋。いじめなどもたまにはいるので注意。それがぎゅっと凝縮された8秒間、彼は一体何を思っているでしょうね。

半分実話の現実学園ストーリー。

お時間があれば、目を通していただけると嬉しいです。

お願い致します。

荻野君は決意した。

1「荻野君は決意した」

黒板の前で、担任いししが大声をだして算数を教えてくれている。

その馬鹿デカイ声は、俺の右耳からそのまま脳を完璧にスルーし左耳へ直行。

窓の外を眺めてはみるものの、目にうつる満開の桜の花はただの紙切れに見えてしまつてとても綺麗だとは思えない。

今、俺の頭の中はそう・・・…回し車を超高速でカラカラカラカラやってるハムスターの如く超高速回転している。

それもこれも、朝の会で担任いししがあんな事を言つたから悪いんだ！！

「おはよう」

「おはようございます伊生先生」

「そうだお前ら6年生になつての作文は今日までだからちゃんと出せよ」

「はい」

「はいは伸ばすな」

「はい」

一瞬の沈黙の後、いししはぶつとい眉毛をピクリとあげて、なにやら話はじめた。

「あー・・・そうだ決意作文といえば、俺も書いたなあ。毎年あったんだよ」

「……」

「それでな俺、いつもは偉い子ぶって、苦手な理科を頑張るやら友達増やすやら、真面目なこと書いてたんだ」

なに言ってるんだこいつ。

「………」

「でもな、6年生になったら急にそれが氣にくわなくなってきたなあ……」

「………」

「で、6年生の決意作文、好きな女の子に卒業式で告白しますって書いた。嘘じゃねーぞ。当時もそれが本音だったしな」

「・・・どうなったんですか？」

河東が手を挙げて尋ねた。

いししは河東の顔をちらりと見た後、続けた。「告白した。卒業式の日」

「ええー……っ!」

「で、ふられた!」

「ええー……っ!」

氣がつくと俺はいししの話に夢中になっていた。

「それで、今その人どうしてるんですか？」山里が恐る恐る尋ねると、いししはまんざらでもなさそうな顔で答えた。

「どうなったんだと思う？」

いししがにやけて、前川に問いかける。

「もう会ってないとか」

前川がその問いに答えるなり、いししはバカヤロウと呟いて言った。

「今の女房だ よ！」

「嘘だ！だってふられたんでしょ？」

篠木の言葉に、いししはこう返した。

「あー。あんときは確かにふられた。でもな、中学高校とアプローチしまくったら4年前の同窓会で向こうから告白された。で、今に至るって訳だ」

どうだすげえだろ、とばかりの会心の笑顔。すげ。

やべ。

「先生、あと3分でチャイム鳴りまーす」

半田が手を挙げて言う。

「ん？ああ、そうだな。とにかく言いたい事は、6年生の時の決意が人生を変えるかもしれないから、慎重にふざけないで書けつてこと。さ、一時間目は算数か。宿題はやってきただー……」

ここから先はあまり話を聞いてなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4609v/>

8秒

2011年10月9日13時27分発行